



ピースアクション2011

佐賀県内の6つの生協が協力して、“平和とよりよき生活のために”をスローガンに、毎年親子で取り組める平和活動を行っています。次世代の子どもたちのためにも、核兵器と戦争のない世界を願って、2011年8月に以下の取り組みを行ないました。

(主催)佐賀県生協連合会

ピースリレー2011 8月3日(水) 10時20分～11時50分 参加者183名

☆183名の参加で、親子いっしょに約1.6kmのコースを歩きました。

参加無料
託児あり

- 10:20 集合・受付～アバンセホールにて
- 10:30 出発集会 ～ふれあい広場(アバンセ西隣)にて
- 10:45 行進出発[どんどんどの森(ふれあい広場)→中央大通り→アバンセホール]
- 11:25 アバンセホール 帰着・休憩(飲料・おやつを用意しています)
- 11:35 終了集会(アピール採択など)
- 11:50 終了～昼食

引き続き「平和のつどい」を開催しました。



佐賀市内を行進 炎天下、核兵器廃絶と平和の大切さを沿道の市民へアピールしながら、1.6kmを元気に行進しました。



県からの激励メッセージ



福岡県からの代表団と応援メッセージ



平和のつどい2011 8月3日(水) 13時～14時半 参加者168名

会場: アバンセホール(佐賀市天神3-2-11どんどんどの森)

参加無料
託児あり

◇アニメ映画「ジュノー」上映(60分)

原爆投下後の広島で尽力したスイス人医師マルセル・ジュノーの生涯を描いたノンフィクション伝記映画。ジュノー博士の「無償の愛」「美しい心」「不屈の精神」を伝え、人々に勇気と希望を与えてくれるアニメーションでした。



●ストーリー 修学旅行で、広島平和記念公園を訪れた中学生の美依と優子。公園の片隅にポツンと立つ「マルセル・ジュノー博士」と刻まれた顕彰碑を見つける。と、突然ふたりは不思議な光に包まれ、意識だけが時空を越えてジュノー博士の生涯を追体験する。

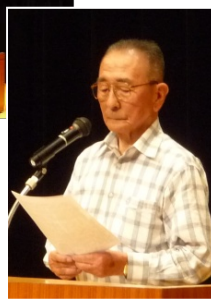
●忘れてはならない恩人

原爆投下から間もない広島に15トンの薬品、医療器材を運び、自らも被災者の治療に当たったスイス人医師がいました。その「恩人」の名はマルセル・ジュノー。赤十字国際委員会の駐日首席代表でした。博士の顕彰碑が平和記念公園内の片隅にあります。



◇被爆の証言(25分)

佐賀県被爆者団体協議会
会長 吉富 安美さん



ナガサキの想いを共有し、次の世代へ広げようと、19名の親子が長崎市を訪問しました。

〈スケジュール〉

6:30 鳥栖市役所 発 → 7:00 神崎市役所 発 → 7:20 コープさが本部(開成) 発 → 7:55 コープさが第3支所(北方)

9:30~11:00 **フィールドワーク「生協平和のまち歩き」**

平和公園近辺の主要な原爆遺構をめぐる。また、この地区に特徴的なキリスト教徒の歴史と過酷な運命についても想いをはせました。

11:00~12:00 **原爆資料館見学(折鶴を寄贈)**

12:00~ **昼食**

13:30~15:40 **虹のひろば(長崎市市民会館)**

オープニング(ハンドベル演奏20分)、主催者あいさつ、朗読劇「チンチン電車の詩」&被爆証言(115分)、平和コンサート(20分)

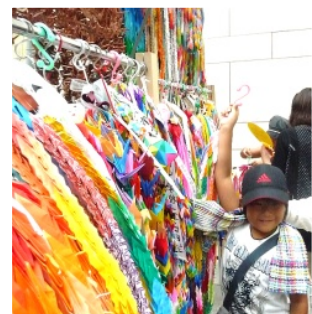
15:45 長崎を出発 → 17:25北方 → 17:55佐賀 → 18:20神埼 → 18:55鳥栖 帰着



原爆投下時刻の午前11時2分に、平和公園で平和の鐘を鳴らし犠牲者の冥福を祈りました。



平和の折鶴18,266羽を「長崎原爆資料館」へ届けました。



「生協平和のまち歩き」

平和案内人のお話を聞きながら原爆遺構を見学して回りました。

